

## 『共創』 共に創るまちづくりへ

皆さん、お世話になっています。

胆振東部地震からの復興を進める中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大というこれまで経験のない困難に直面し、大きな変化の時代を迎えています。

新型コロナウイルス感染症は、5月8日から5類感染症に移行しました。

町民の皆さん、事業者の皆さん、そして医療従事者等の皆さんに長期間に渡りご尽力をいただいたことに敬意を表します。

今後も、これまでの経験を生活に活かし、基本的な感染対策を図り、予防を習慣化していく社会が必要とされています。

さて、去年は、震災で被災した胆振東部消防組合鶴川支署の新庁舎も完成し、被災前よりさらに強い地域防災の拠点を築くことができました。

そして、鶴川ししゃもふ化場も完成し、新たな研究組織の設立及び研究の深化を図り、記録的な不漁が続くししゃも資源の回復につながればと期待しています。

また、今年度からは、新たに子育て支援を応援するため、むかわ町子育て応援基金を創設し、0～2歳児の保育料無償化を実施しています。

さらに、穂別博物館の周辺エリア再整備については、人口減少社会に向き合い、穂別地区のまちなか再生やにぎわい創出と併せ、脱炭素やDXなど社会と地域の課題も同時に解決する、関係人口の拡大を意識した共に創るまちづくりのモデルケースとなるような「復興の拠点」として事業化に着手しています。

この穂別地域での展開を第一段階として、更にその成果を町全域に波及させるため、次のステップである鶴川地域にもつなげてまいります。

一方で、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の特別強化地域として指定も踏まえ、「防災を起点にした防災対策先導のまち」として、いざという時の備えを固めるよう「事前復興計画」の策定とともに、未来に向けた「ビルド・バック・ベター」、より良い「創造的復興・創生」を両輪とし、災害により強い農林水産業の持続性も併せ、まちづくりを推進してまいります。

3年余り続いた新型コロナウイルス感染症により、様々な形の制約がありましたが、以前にも増して、“人と自然が輝く清流と健康のまち むかわ町”を目指して進んでまいります。どうぞ、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2023年（令和5年）5月8日

むかわ町長 竹中喜之



2023年に開催された「さっぽろ雪まつり」、大雪像となり大人気を博したカムイサウルス（左）



カムイサウルスを発掘した北海道大学小林教授（右）と竹中町長（左）